福岡県立小倉南高等学校
南 薫 会 会 報

第３号　令和2年4月8日発行
発行者　福岡県立小倉南高等学校南薫会
会 長　福 田　太 郎
事務局　北九州市小倉南区富士見1-9-1
（小倉南高等学校内）
電話(093)923－3731
FAX(093)941－3435
E-mail　nankunkai@ori.bbiq.jp

ご挨拶

会長　福田　太郎(S52年卒)

会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
会報紙第３号を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。
昨年は新元号令和に変わり、令和初の総会テーマは同窓会に相応しく
「 繋(つなぐ) connect ～時空を越えて人から人へ 心と心をつなごう 」でした。
人と人が強い絆で結ばれ、同窓生として「繋」をつくり、その絆が長い伝統を作る。このようなことが正に「同窓会」であると思っております。
事業経過を報告いたします。会則の第3条の3に母校の教育援助という項があります。総会時に皆さんの賛成をいただき、校旗（レプリカとも）を寄贈させていただきました。その授与式は全校生徒の前で10月29日に行いました。
生徒には、校章の意味や学校の象徴である校旗の大切さを知ってもらうとともに「校旗」に寄せる先輩方の思いを後輩の皆さんに伝えることが出来ました。
また、21世紀人材作り事業の新しい試みとして、３月に関西地区の大学訪問研修を２泊３日で実施する予定でしたが、新型コロナ騒動で中止となりました。生徒の進路に対する認識を深めてもらうことと、現地に滞在する先輩方との交流により、同窓の関係にも意味深い物になる事と考えています。時期を見て実施して行きます。本年の８月には第３回の北海道研修への生徒派遣、そして夏頃には、昨年度末より期の代表幹事さんや先生方のお声かけに賛同していただいた皆様のご協力を得て「定時制同窓生の集い」（仮称）を開催する計画をしております。
このように会の事業が滞りなく計画、遂行出来ますことは、偏に会員の皆様のご支援・ご協力の賜であり、心より厚くお礼申し上げます。我々役員一同は、会の目的である「会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与する」を念頭に、今後とも一層会の発展のため努力してまいります。会員の皆様に置かれましては倍旧のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
会員の皆様の更なるご活躍とご健康を心よりお祈りいたしまして、ご挨拶といたします。

（「新年の集い」に参加した役員の皆様）

校長挨拶

校長　吉武　正浩

サツキと校訓碑、ソテツと校章、そして校旗と克己

正門をぬけると正面には『 自主 創造 親愛 』と書かれた校訓碑が目に入ってきます。この校訓碑は昭和60年(1985年)の本校創立80周年記念式典並びに校舎改築落成記念式典の際に、南薫会により建立されたものです。碑を囲むようにツツジやサツキ等の花木が植えられ、正面玄関との間には、かなり昔から本校の敷地内にあった大きなソテツが移植され、今年で35年ほどが経ちました。南薫会の皆様方のご支援や温かい激励のお言葉を賜りながら、充実した教育活動が展開されてきた証だと確信していますが、人も木も成長が著しく、令和の時代となった今、校訓碑の前のサツキが校訓の文字の一部を、ソテツが玄関の校章を隠す形まで成長してしまいました。樹形が整っていたので躊躇しましたが、校訓碑の前面のサツキは撤去し、花壇を造らせていただきました。ソテツについては正門から校章がはっきりと見えるよう剪定いたしました。花壇の管理は本校園芸同好会が行い、一年中明るい要囲気で来校される皆様や生徒たちを迎えられるよう四季折々の花の植え付け等に努めてまいります。また、今年は学校の顔といえる校旗を新調していただき、本校体育館での校旗贈呈式において、福田会長より式典用の校旗と行事用レプリカの披露そして贈呈を行っていただきました。その最後には全校生徒と職員が校歌を声高々と歌い、校章の意味や校旗の大切さを実感できた素晴らしい教育の機会でした。
本当にありがとうございました。
さて、生徒たちは、心と心で深くつながった南薫会の諸先輩方より脈々と受け継がれてきた伝統や思いをしっかりと引継ぎ、文武両面において日々努力を続け本校部活動の活躍や進路実績も、さらに輝きを増してきています。毎年の全日制、定時制ともどもの県大会や九州大会、そして全国大会への出場。特に、今年は定時制において柔道全国大会で女子個人の優勝、男子個人の準優勝とめざましいものがありました。また、全日制においては、南薫会からのご支援による先輩諸氏からのメッセージ「限界突破」が力強く書かれた緑色のノートに支えられ、目を見張る希望進路の実現を果たし進路実績を上げています。今後も、校章を形作る南十字星に負けぬよう、ますます輝きを増していけるよう生徒と職員がONE　TEAMとなって精進してまいりますので、引き続きご高配とご声援をよろしくお願いいたします。

学校だより

校旗は学校の印、小倉南高校自身

校旗披露（左側　手刺繍、右側　レプリカ）

校旗授与式開催

令和元年10月29日（火）、当日6限目の終了後、全校生徒が体育館に入場。その中を福田会長、山岡・浜野両副会長、清田本部幹事が迎え入れられ、校旗贈呈式が開催されました。

創立80周年記念で作成された校旗が、刺繍の糸は切れ、ほつれも目立ち、地色も日焼けして変色、修復不可能な状態でした。今回、学校の要望に沿って、手刺繍の物と日常的に使用できるプリント製品のレプリカの2点を寄贈いたしました。学校の計らいで、全校生徒の前で授与式が開催されました。

校章の由来を同窓生の中野先生から全校生徒の皆さんに伝えていただきました。福田会長は校旗に寄せる先輩方の思いを伝えるとともに、大切に扱い、末永く後輩の皆さんに受け継いで行ってもらいたいと話されました。

校章の考案者紹介

故　**藤村　正武　S3年卒**

S23年～S25年　本校教諭

第2代　同窓会　会　長
（S42年～S55年）

校　　章

「南薫会賞」　を用意して、　南薫祭に参加

「南薫会賞」を受ける準優勝の2組代表

南薫祭（文化祭）で、「私の折々のことばコンテスト」が開催されました。これは、大学入試改革で重視される論理的思考力や表現力を新聞を活用して磨くことを目的に朝日新聞社と連携して開いている連続講座の一環です。哲学者・鷲田清一さんによる朝刊一面コラム「折々のことば」にならって、自分自身が心に響いた「ことば」とそのエピソードを夏休みの宿題として、綴った作文を基に何故、その「ことば」を選んだのかをプレゼンでアピールするのです。

各組代表1チーム5組で競い合いました。優勝チームは5組の「かわいくない」で朝日新聞社賞、準優勝チームは2組「空気を飲めば・・・・。」で南薫会賞を受けました。審査員として席に着いた山岡副会長は、「審査員としての責任も感じ、久しぶりに緊張した時間と感動をいただきました。」と話されました。

定時制全国大会「優勝」（女子柔道）結果報告

応援のお礼と報告をする先生と選手の皆さん

全国高等学校定時制通信制体育大会（令和元年８月10日～12日）に陸上競技部男子の秋吉龍聖さん・出谷純也さん・内藤和八さん、同女子の秋吉桃花さんと、柔道部男子の早川海斗さん、同女子の川原夢さんらが出場。

秋吉龍聖さんは、砲丸投げで３位入賞。早川海斗さんは柔道男子９０キロ超級で準優勝、同じく女子６３キロ超級では川原夢さんが優勝という快挙を遂げました。

南薫会は選手たちと引率の先生方から、応援のお礼と結果報告を受け、久し振りの快挙に福田会長はじめ、役員の皆さんも大喜びをしました。会として心ばかりではありますが、「功労賞」を贈呈して労いました。体調に留意して来期も頑張って欲しいものです。この快挙は、福岡県教育委員会にも報告され、その様子は西日本新聞（令和元年9月3日）にも大きく掲載されました。

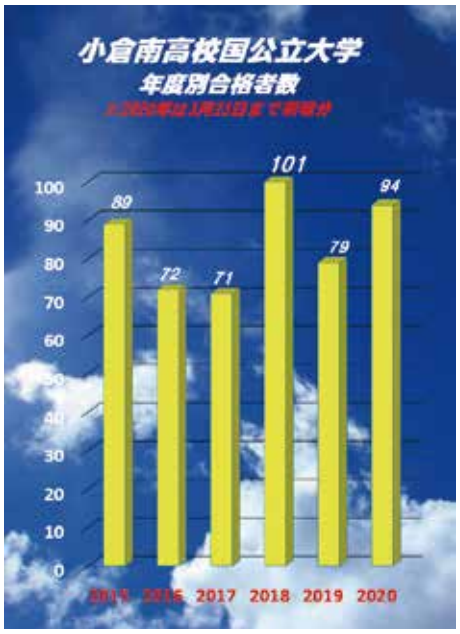
北九州市民スポーツ賞受賞

女子柔道63キロ超級で優勝した川原夢さん達は、令和2年2月19日、ミクニワールドスタジアムで、北九州市民スポーツ賞表彰式に出席しました。川原夢さんは、北九州市民スポーツ賞受賞、砲丸投げで3位入賞の秋吉龍聖さんと男子柔道90キロ超級で準優勝に輝いた早川海斗さんは、北九州市民スポーツ奨励賞を揃って受賞しました。皆さん、笑顔いっぱいで輝いていました。

笑顔いっぱいの3人

関西研修　令和元年度新事業

令和２年度入試においては、前期試験までで 87 名（うち現役 82 名）を超える国公立大学の合格者を出すなど、年々進路実績も伸びてきています。以前に比べると、関関同立をはじめ関西地区のトップレベルの大学を受験する生徒も増加、立命館大学や関西大学は毎年数名の進学者を送り出すようになりました。小倉南高校の進路実績が向上してきた要因の一つには、このように福岡県を含む九州地区から全国へと目を向けることができるようになったことがあげられています。



そこで、同窓会では、「関西地区のトップレベルの大学を訪問して大学の雰囲気を肌で感じ、そこで学ぶことの意義を考え、関西地区の大学を身近なものとして捉えさせることで進路選択の幅を広げさせたい」という学校の意向を踏まえ、事業の一つとして秋から準備を進めてきました。ところが、生徒の進路実現の一助となればと期待していた矢先の、新型コロナウイルス感染拡大の報が入ってきました。諸般の事情を考慮し、小倉南高校としても今回の研修は中止という決定をせざるを得なかったようです。

関西支部においては、昨年度、京都で開催された支部総会（H30.11.18）には大学生をはじめ 20 代の卒業生が 10 名以上参加していました。総会前に開催された文化シャッター株式会社の藤田義徳氏（昭和 49 年卒）による学生向けのに講演は大変好評だったようです。今後もこのような機会を設定していただくことで、少しでも若い世代との交流が進んでいけばと期待しています。今回の関西研修においても、関西支部との懇親会等をお願いをしていましたが、実現できずに残念でした。

今回の研修は中止となりましたが、状況にもよりますが、今夏か来春には実施できればと考えています。関西支部のみなさま方には、今後ともご協力をお願いいたします。（左記図表の 2020 年は、3 月 23 日まで判明分）

あの頃のアルバムを開いてみたら…

在りし日の園芸科フラッグ

作業中の生徒

明治39年農学校として開校、昭和24年新制高等学校が発足することになり、普通科の中に１クラスの園芸科が設置された。昭和40年3月(1965年)園芸科は幕をおろすこととなった。

時代の波に乗り、「英語コース」を平成2年4月に１学級設置。
しかし、平成30年3月「英語コース」は廃止された。

英語コース 閉コース式

1975年8月　夏の甲子園初出場！

あれから半世紀近く、甲子園出場の夢は果てしなく続いています。後輩の皆様の努力に期待する今日です。今年は創部70周年になります。
皆様の応援･ご支援よろしくお願いします。
現野球部OB会長 植村 博和（S46年卒）談

オンボロ電車
"はやくこいこい

1969年 富士見町電停
（懐かしい学帽姿、現在はなし．．．。）

北方電車の敷石が並ぶ正門（電車は1980年に廃止）

1976年の修学旅行
山陽新幹線 1975年に博多まで開通

令和2年2月 小倉駅新幹線ホーム

1981年 大阪南港　全行程バスの修学旅行
飛騨、黒部ダム、永平寺等

旧 日本アルプス縦走の修学旅行に向かう県立小倉南高の２年生551人。山を歩くため、ナップサック、魔法瓶を持参していた＝1965(昭和40)年７月、国鉄小倉駅で

（平成27年5月13日毎日新聞掲載より）

1969年 国立競技場の中で（昭和46年卒生）

2019年 令和元年 新国立競技場

2020年 修学旅行（旧富岡製糸場）とスキー教室（万座温泉）

いろいろな事が浮かんできました…

南薫会本部並びに支部紹介

南薫会本部事務局

南薫会会長　　福田　太郎（昭和52年卒）

代表連絡先 本部事務局 福岡県立小倉南高等学校内
〒802-0801 北九州市小倉南区富士見１－９－１
TEL０９３-９２３-３７３１　fax 093-941-3435
E-mail ： nankunkai@ori.bbiq.jp

転居等で連絡先を変更する時は、クラス幹事又は事務局迄連絡下さい

※南薫会総会については、後日、詳細を
ホームページに掲載いたします。

祝 還暦年（ S52年卒生 ）

懇親会会場で

北九州市役所南薫会

支部長　　相良　明夫　（昭和55年卒）

代表連絡先　　市役所南薫会幹事長 大江 浩（昭和５５年卒）自宅
〒800-0205 北九州市小倉南区沼南町２-１２-５
TEL ０９０-１０８０-９５７９

総会・懇親会　　令和 元 年 11月 27日（水）１８：３０から、
リーセントホテル小倉で 開催しました。
市役所南薫会総会は毎年開催しております。

北九州市役所（行政・病院・消防）・外郭団体に勤務した方、現在勤務している方は 奮ってご参加ください。

※令和2年の開催日時は、ホームページに掲載します。

南薫会 関東支部

支部長　　早川 五四男　（昭和４１年卒）

代表連絡先　　関東支部事務局 児森進作（昭和３７年卒）自宅
〒 343-0041　越谷市千間台西３-２-３０１
TEL　０４８-９７８-９４７０
E-mail ：childwood-saku439@nifty.com

関東支部総会　　令和元年11月17日（日）東京都千代田区霞ヶ関の
「東海大学交友会館」で開催。次回は、令和3年開催。

詳細は支部事務局へ。ホームページにも掲載します。関東エリアに進学・就職される同窓生の、多数の参加をお待ちしております。令和2年より、支部年会費を徴収させていただきます。よろしくお願いします。

来賓挨拶をする福田会長

若い参加者を迎えて

南薫会 関西支部

支部長　　伊藤　文博　（昭和５５年卒）

表連絡先　　関西支部事務局 伊藤 自宅
滋賀県守山市梅田町5－1
藤和ハイタウン守山901号

関西支部総会　　平成 30年 11月 17日（日）11:00～
（アランヴェール京都：京都市下京区）

※ 今年、令和2年は開催中止。
詳細は、後日ホームページに掲載します。

同窓生紹介

昭和 47 年卒

樽井　敬三氏（ 66 歳 ）

模範打ちをする樽井氏

平成 31 年 2 月 11 日（月）の毎日新聞の「まちの宝」に小倉祇園太鼓の模範打ちをしている樽井氏が掲載されました。平成 31 年 3 月に太鼓芸としては、全国で初めて「国指定重要無形民俗文化財」に指定されました。400 周年を迎えた歴史ある「小倉祇園太鼓」は、次の 100 年に向けて輝かしい船出となりました。この小倉祇園太鼓保存会で副会長として、創作和太鼓とは異なる伝統の三拍子の打法の技術を、後世に伝えています。今回の企画に快諾して、手記を寄せていただきましたので一部を紹介します。

昭和 47 年に卒業し、進学での上京を経て帰倉し、42 年になります。南高卒業生を核として、同世代異業種交流会を結成。適確な情報収集と僅かですが社会貢献も実践しました。そのことが企業勤務で得た知見に加味し、各種活動の大きな支えになったと自負しています。65 歳を過ぎ、第一線から退く年齢に近づきましたが、元気な先輩諸氏を見習い生涯現役たる覚悟で「おぎおんさん & 自治会 & 企業経営」と三つの柱で邁進したいと思っています。最後に小倉南高校のさらなる飛躍と卒業生の活躍を祈念します。（樽井敬三氏手記より）

小倉城天守閣 再建 60周年

モニュメントの前で
（左から2番目）矢野副会長

勝山公園内に建てられた
中村座

夜の小倉城

小倉城天守閣が 28 年ぶりに改装されました。
令和元年は再建 60 周年となり、『佐々木小次郎と宮本武蔵』のモニュメント制作・除幕式、『薪能（たきぎのう）』など記念のイベントが多く催されました。その中の一つ、平成中村座小倉城公演が九州初上陸。令和元年１１月１日から１１月２６日まで昼席・夜席とありました。チケットは直ぐに完売したそうです。歌舞伎公演の鑑賞だけでなく、まるで江戸時代の芝居小屋にタイムトリップしたような感覚で、又その劇場前の売店にも足を運ぶと「小倉」を再認識したそうです。

背景は小倉城竹あかり　11 月２・３・４日点灯

同期会・OB会

32年会(S32年卒生)

日　時　令和元年10月6日(日)12：30～
場　所　松柏園ホテル
会　費　7,500円
連絡先　池尻　英二
　　TEL 093－471－7985

46(よんろく)会 (S46年卒)

日　時　令和2年1月25日(土)
場　所　とん
会　費　5,000円
連絡先　４６会会長　植村 博和
　　TEL 090－6491－5416
※次回は総会会場でお会いしましょう！

47(ヨンナナ)会 （Ｓ４７年卒）

日　時　令和2年10月17日(土)18：00～
場　所　湖月堂本店 ３Ｆ
連絡先　浜野 一俊
　　TEL 090－7156－9011
※詳細は南薫会のホームページに掲載します。

ソフトテニス部OB会

日　時　令和3年3月
　　総　会 18：00～
　　懇親会 18：30～
場　所　小倉飯店
会　費　学　生3,000円／社会人5,000円
連絡先　事務局　福田 太郎
　　TEL 080－1530－4772
※OB会発足45周年になります。
　後日、詳細を連絡いたします。

S45年卒　輪の会

日　時　令和元年11月2日(土)18：00～
場　所　ステーションホテル小倉
会　費　8,000円
連絡先　輪の会 会長　木村 勝治
　　TEL 090－1164－7072

山岳部OB・OG会

日　時　令和2年11月22日(日)11：30～
場　所　湖月堂本店 ３Ｆ
会　費　6,500円
連絡先　鈴木　昭秀(S42年卒)
　　住所 北九州市小倉南区下貫2-4-25
　　TEL 080－5434－2316
※案内が届いていない方ご一報お待ちしています。

野球部OB会

日　時　令和2年2月23日(土)
　　総　会 18：00～
　　懇親会 18：30～
場　所　小倉飯店
会　費　5,000円
連絡先　ＯＢ会会長　植村 博和
　　TEL 090－6491－5416

※ 今年、創部70年になります。
　母校の野球部に記念品贈呈の為、募金活動をします。
　ご協力をお願いいたしま～す。

編集後記

令和の最初の会報となりますが「南薫会会報」も３回目となり、やっと少し慣れてきましたがPCトラブル発生、コロナウイルス問題等で試行錯誤しながらも無事、発行の運びとなりました。今回の特長としては、過去の卒業アルバムを探し、今昔対比と小倉城天守閣再建６０周年のイベントを取材したところであります。

恒例の本部総会は新型コロナウイルス感染症拡大等を考慮して、５月６日以降に開催日等を決定する予定です。ご協力よろしくお願いします。

今後とも「南薫会事業」として定着させたく、皆様のご意見・ご寄稿・ご提案を心よりお待ちしております。

送り先　郵便番号　802-0801
住　　所　北九州市小倉南区富士見１－９－１
宛　　先　福岡県立小倉南高等学校南薫会事務局編集部
電　　話　093-923-3731　　ＦＡＸ　093-941-3435

発行年月　令和２年４月
編集部代表　浜野　一俊(昭和４７年卒)